第二十三回中央教化研究会議

一、開催趣旨

(1) 中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催されます。

(2) 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、管区・教区での教化活動の現状を話し合い、お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討致します。

(3) 各部会での討議を通して、教学の現代化、教育問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

(4) 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

二、全体会

(1) 記念講演「情報化社会と宗教」　東京女子大学教授　野崎　茂　氏

(2) 教区教研討論会

① 北陸教区レポート　富山県長清寺住職　串田教雄師

② 中四国教区レポート　徳島県善学寺住職　大塚教行師

③ ディスカッション「教区教研の問題点」

(3) 教化研修「霊友会訪問研修」

三、部会

○第一教学部会「教化学に取り組むに当り――その一案として――」

教化学とはなにか――概念（コンセプト）づくりの努力について――

教化学の現代化と応用化、現場における具体的事例

① 企業管理者に対する指導事例

② 檀信徒対象の教学的教化の事例

○第二寺檀部会「檀家制度の良い点・悪い点」

檀家制度が確立して久しいが、内外変動著しい現代社会にあって今一度欠点や利点を考察し、望ましい寺檀関係を探りたい。

○第三法器養成部会「二十一世紀を担う僧侶づくり」

信行道場など僧侶育成の教育現場が抱える諸問題を点検し、将来の宗門にとって最重要課題である人材づくりのあるべき姿を検討します。

○第四世代別教化部会「青・壮年教化をすすめるために」

なぜ、青・壮年は寺に来ないのか

青・壮年を寺へ集めるために、私はこんなことをしてみたい

○第五教化伝道ネットワーク部会「ニューメディアの活用とネットワークづくりに向けて」

布教活動に有効な現代機器とその利用方法と具体例、さらに日蓮宗の寺院や僧侶全体が異体同心していく事のできるシステムとその内容を探ります。

○第六社会問題部会「現代人の病と日蓮聖人の教え」

病人に対する日蓮聖人の教化、現代社会の中で僧侶が病人とかかわりあっている事例、新宗教が病人とかかわりあっている実態

○第七立正平和部会「環境問題と私たちの信仰生活」

立正安国の祖願実現に向けて、各地の活動のレポートや、その具体的方策を話し合う部会です。

今回は法華経信仰から見た自然環境の問題を中心に取り組みます。

四、開催方式　今回の中央教化研究会議は、次の方式で運営する。

(1) 教区の代表により前年度の教区教研会議の報告を行い、意見交換をし、次年度開催へのステップとする。

(2) 部会制により会議を行う。

(3) 出席者は一部会を選び、七月二十日までに教務部宛に参加申し込みをする。参加申し込みと同時に、参加者宛に参加部会のテーマ・討議内容・参考資料などを送付する。

(4) 出席者は、送付された参加部会のテーマ・討議内容・参考資料などをもとに準備をし、開催当日は各部会毎に討議をする。

(5) 会議において討議されたものは、教区の教研会議の資料や今後の教化のハンドブックとして役立てられるようにまとめる。

(6) 教化研究の一助として、他教団を訪問し、その教化方法等を研修する。

五、会　場　朗峰会館　電話　〇三―三七五二―三一〇五

六、宿　舎　朗峰会館

七、参加者　宗務所長より推挙委嘱された教区教研運営委員、或いは各部会に関心があり継続して取り組める管内教師（管区二名）。

八、持参品　〇会議資料・数珠・折五条・布教服・筆記用具・洗面用具

〇各寺・各団体発行の教化資料

九、日　程

◎第一日目　九月五日（水）

受　付　九時～九時三十分
開　会　式　九時三十分～十時
記念講演　十時～十二時
昼　食　十二時～十三時
教区教研討論会　十三時～十五時
部会別討議　十五時三十分～十七時三十分
夕　食　十八時

◎第二日目　九月六日（木）

朝　食　七時三十分
部会別討議　八時三十分～十時
全体会議　十時十五分～十一時十五分
イ．部会報告
ロ．霊友会訪問研修ガイダンス
閉　会　式　十一時十五分～十一時三十分
昼　食　十一時三十分～十二時三十分
教化研修　十三時～十五時
解　散　十五時